

第4回首都圏広域地方計画改定に関する有識者懇談会 議事概要

日 時：平成27年6月29日（月） 14:00～16:00
場 所：A P東京八重洲通り 13階会議室
出席者：出席者名簿のとおり
議 事：（1）新たな国土形成計画（全国計画）について
（2）首都圏広域地方計画中間整理（案）について
（3）その他

主な発言内容

委員

- ・未病については、一般の方が見てもわからないのではないか。
- ・「回復期リハビリテーション」は医療の話であり、介護が必要な状態から回復させるようなことを言いたいのであれば、単なるリハビリテーションとなる。

委員

- ・「新技術を積極的に使い、育てる関東圏」「人材を作り出す首都圏」ということを書けな
いか。地方と都市との連携ができるような人材が必要であり、それが対流になる。

委員

- ・首都圏の課題と特性を課題抽出型でアプローチしているが、そもそも広域首都圏は、今
までどんな産業構造で稼いできて、今後2050年に向けてどんな産業で稼いでいくかを整
理したほうが良い。関東広域のインバウンドを取り込んだ観光戦略でどれくらいの付加
価値を生み出した産業構造になるかを確認すべき。
- ・対流は重要な概念。羽田・成田をリニアでつなぐプロジェクトなど、中央リニアの次の
ステップになるような、ワクワク感のあるプロジェクトを視野に入れても良いのではな
いか。高齢者が生きがいを感じられるよう、ソーシャルエンジニアリング的なアプロ
ーチが必要。
- ・コミュニティーなき高齢化は深刻。高齢者をどのようなプロジェクトに参画させるかが
鍵。
- ・未病など、どのような医療を目指しているのか、ビッグデータと医療のパラダイムシフ
トを融合させたキラーコンテンツが重要。

委員

- ・全体構成のうち、3章が2章と4章のつなぎとしてはラフな感じがする。
- ・共生対流首都圏について、首都圏なのか広域首都圏なのか整理した方が良い。
- ・福島復興に関しては、共生・対流広域首都圏のつながりが非常に大事。
- ・プロジェクトは単なる紹介にはならないようにしてもらいたい。
- ・防災・減災を組み入れた成長・発展戦略について、具体の施策でも、災害時の施策に平
時の取組を入れたものが欲しい。

座長

- ・産業構造的な歴史認識は不可欠なので、検討してほしい。
- ・3章と、4章(4)に似たようなことが書いてある。どちらかにまとめられないか検討してほしい。

委員

- ・2章の分析を受けて、3章のキーワードが出てくるとは思えない。量から質という意味の「質」以外は、繋がりが悪い。
- ・防災面の記述は付け足し的に見える。首都圏にはゼロメートル地帯があることで広域、長期の災害が起こるなど、もう少し現実的なシナリオを記載してほしい。
- ・防災・減災を組み入れるというのには違和感がある。防災減災はベースになるものなのではないか。

委員

- ・世界から憧れられる文化等が、最大の国防になる。世界の人たちからそういう評価を受けられるようにということをごどこかに入れてほしい。
- ・国土計画や国に対する施策の積み重ねもリファレンスできるようにしてもらいたい。
- ・地方自治体に優良な人材を貼り付けられるよう、人材の運用を検討してほしい。

委員

- ・計画は誰が進めるのか。国だけで進めるのは難しい。民間や国民の協力ができないうということに記載した方が良い。
- ・ICTの活用ではオープンデータ、ビックデータについて記載すべき。
- ・地方創生について、対流連携が重要となる。広域首都圏の中には大都市から農山漁村まで全てあるので、グッドイグザンプルを出してほしい。
- ・全国計画との関係が重要。コンパクト+ネットワークで、行政区域の境界と実施地域の境界のズレがあったときにどうするか。
- ・プロジェクトは具体的に、趣旨に沿ったものを出すべき。

委員

- ・高精度測位の標準化に取り組むべき。例えば、30センチ、1メートル、3メートルなど精度によって測位レベルを規定し標準化する。
そうすると、災害時の誘導や、高齢者の見守り・健康維持など、様々なプロジェクトでどこまで目指すのかを標準化された同一指標で定義できる。
- ・屋内外共通の地図情報の整備が必要。特に屋内については、建物の管理者・所有者が民間なこともあるので、国がリードして欲しい。

座長

- ・首都圏の構造的な特性は、経済、産業の分析も含めて、2章の最初に書いてはどうか。
- ・国際競争力の強化に関して、羽田、成田の機能強化と、主要空港以外の空港をもっと使うことを首都圏が言っていくことが重要。
- ・都会と地方にいる若者の人的ネットワークが新しい人材の育成になる。
5章のプロジェクトは、あまり細かいことを言わず、骨太に作って欲しい。

以 上